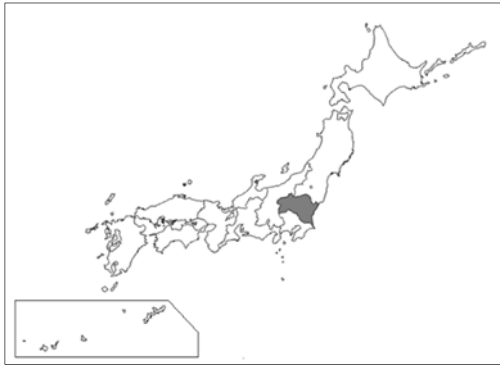


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

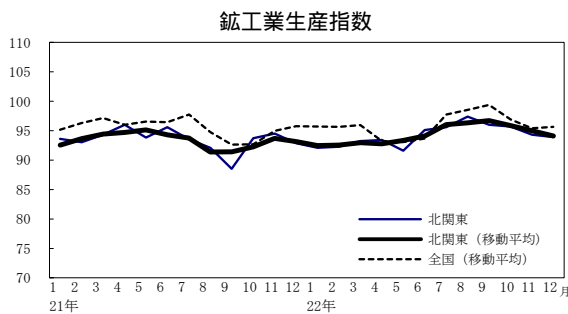
前回からの主要変更点

	前回 (令和4年11月)	今回 (令和5年3月)
景況判断	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏みがみられる

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

10-12月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により、前期比1.8%減となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
 3. 北関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
石油・石炭、化学、プラスチック	20.1	0.6	▲0.9	1.4	▲1.1	▲0.7
輸送機械	18.3	4.9	4.1	9.1	▲2.3	0.2
汎・生産・業務用機械	17.1	6.2	▲6.8	▲5.3	▲2.9	▲0.7
食料品・たばこ	12.1	3.1	—	▲3.8	1.4	—
電子デバイス、電気・情報通信	11.2	5.0	▲1.5	1.0	▲4.5	1.4
鉱工業	100	3.2	▲1.8	▲0.3	▲1.5	▲0.4

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 10-12月期、12月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

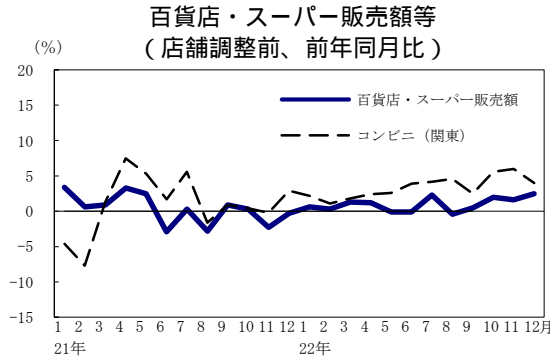
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比0.1%増となった。月別にみると、10月は前月比1.1%増、11月は同1.2%減、12月は同0.4%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比2.1%増となった。月別にみると、10月は前年同月比2.0%増、11月は同1.6%増、12月は同2.5%増となった。



	2022年10-12月	2022年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.1	1.1	▲1.2	▲0.4
百貨店・スーパー(*2)	2.1	2.0	1.6	2.5
コンビニ(*3)	5.1	5.6	6.0	4.0
乗用車(*4)	12.0	34.6	5.4	0.7
(季節調整値) (*4)	8.4	17.1	▲6.7	▲0.2

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

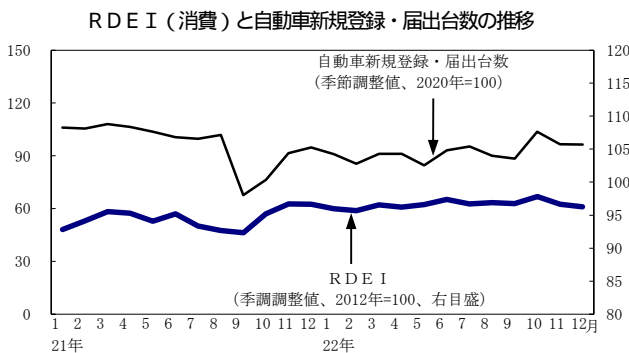
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

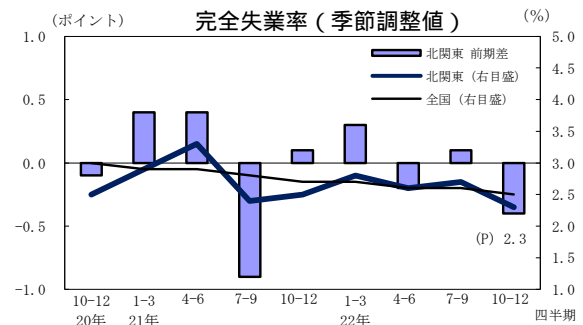
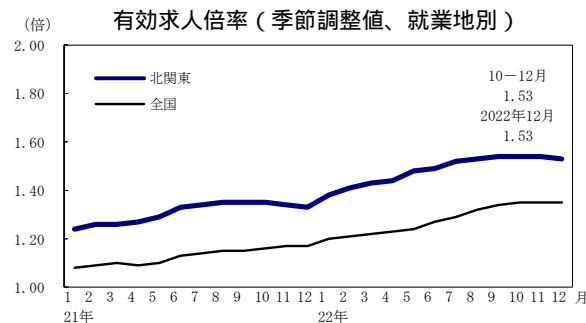
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

2. 10-12月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和5年1月調査) 景気判断理由の概要

3. 北関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・例年同様、年末年始にかけて来客数は増えているが、販売では新車登録ができず、修理関係は余りにも入庫台数が多過ぎて処理しきれないという嬉しい悲鳴である。例年の年末年始とは大して変わらない (乗用車販売店)。
		▲	・価格高騰や公共料金の大幅値上げ等による消費者の購買意欲の低下が、店頭で見受けられるようになってきている (百貨店)。
		○	・出張関連の客が平均して増えてきている。人流が動き出しているようである。天候に左右されて来客数が増減する感覚が、新型コロナウイルス感染症発生前に似てきている気がする (一般レストラン [居酒屋])。
	企業動向関連	□	・新生活用品である白物家電の冷蔵庫、洗濯機、オーブンレンジ等の物量は前年並みを確保している。また、光熱費、電気代の値上げにより、石油ストーブ、石油ファンヒーター等の物量も増えている。しかし、物価上昇による買い控えもあり、全体的には前年の1割ダウンの物量となっている (輸送業)。
		▲	・再び、新型コロナウイルス感染症の感染率が報道されて、言外に自粛ムードが広がっている。やっと上昇の兆しが見えた家計の経済活動に、急ブレーキが掛かっている。また、自動車や家電等の分野では、部材の調達難から新製品等の供給や販売が滞っており、関連下請企業や原材料、部品等を供給する地場企業の生産活動が低迷している (経営コンサルタント)。
		○	・毎月、前年の1割くらいずつ、売上が伸びている。一昨年と比べると2割くらいの売上増になっている。ウィズコロナで、段々と平常に戻ってきているのではないかと (電気機械器具製造業)。
雇用関連	□	・求職者の新規登録が増えず、慢性的な人材不足が続いている (人材派遣会社)。	
	○	・10月と比べ、新規求人数は全数で1.7%の減少となったものの、卸や小売業、飲食サービス業等では増加がみられ、業種によっては人手不足感が増している。前年同月比では10.3%増加し、15か月連続で前年を上回り、持ち直しの動きがみられる (職業安定所)。	
その他の特徴コメント			▲：年末から大雪や寒波が続き、全国旅行支援が再開されても以前のような勢いはなく、来園者数も伸びない (テーマパーク)。 ×：悪くなっている状況が丸3年続いており、まひしている。新型コロナウイルス感染症の分類が変わらない限り、何も変わらない (都市型ホテル)。
先行き	家計動向関連	□	・短期間で現状から変わる理由が見当たらない。春に向け行楽やレジャーへの意識が高まれば、その分、生活品への節約意識は高まっていく (住関連専門店)。
		○	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類になれば、より一層、活発に人が動く (旅行代理店)。
	企業動向関連	□	・材料やその他いろいろと経費が掛かっているので、今、親会社と単価を交渉中である。親会社の方でも、製品の販売会社に単価を上げてくれるよう交渉中で、返事を待っている。単価が上がれば採算が取れるようになる (金属製品製造業)。
		○	・世界的な受注は確保されているので、半導体不足が解消されれば高稼働になる。人材確保が課題である (輸送用機械器具製造業)。
	雇用関連	□	・人材派遣業だが、求職者が少ない (人材派遣会社)。
その他の特徴コメント			○：暖かくなるにつれて客足が伸びるため、やや良くなる (コンビニ)。 ○：進入学や転勤での需要が増えるので、今よりは販売は伸びるが、4月中旬までには通常に戻ると予測される (通信会社)。

(D I) 現状・先行き判断D I (北関東) の推移 (季節調整値)

